

# Poster Panel

## 2002 第3回未来を担う学生のための建築CGコンテスト2002 入賞

「快適な住まい」とは何だろうか考えた時に、私たちは2つの切り口を思い浮かべました。ひとつは、住み手の好み・変化を全て受け入れられる包容力のある住宅、すなわち「簡素」で「柔軟」な住宅と捉えました。住み手の顔が見えない状態をつくりあげることと配慮し、極端な造形的デザインに走ることなく、住むための仕組みを提案することが重要だと考えます。もうひとつは、「光」と「風」が隅々まで行き渡る、すなわち「採光」と「換気」が十分に行える住宅と捉えました。窓のあるテラス側からの奥行きが大きく、この住宅の住環境を悪化させる要因となっています。さらに奥には窓がなく、昼でも薄暗く、空気が淀んだ環境となることが想像されます。私たちはこの2つの問題を解決し、都心で快適に住むために、可動式レールを用いたカーテンによる間仕切りシステムを考えました。レールは床から約2mの高さで井桁状に組み、天井から吊り下げます。東西方向の2本のレールのみ可動式とし、南北方向のレールは可動レールを支える固定レールとします。レールの上部には、天井を間接照明として機能させるための照明装置が取り付けられています。まず、最も環境の悪い出入口両脇のスペースを大きな納戸とし、残りを「やすらぐ」「たのしみ」「はたらく」という3つの行為を支援する空間と考えました。カーテンはその3つの行為を柔軟に仕切り、可動レールを動かすことで、必要に応じてその床面積比を変えることができます。カーテンの部分的な追加も自由に行えるので、柔軟に区切ることができます。また、レールを鴨居だと見立てると、欄間部分には光や風、視線を遮るものが何もなく、区切られたどの空間も天井に反射した柔らかな太陽光が入ってくることでしょ。住宅中央に設けられたキッチンシステムによる機械換気によって、空気の循環も十分行われます。さらに、カーテンの材質を変えることで、カーテン越しに光を取り入れたり、遮光したりできます。「家具や家電にお金をかける、住宅の内装はそれを受け入れることのできる、オシャレな器でいい」こんな人々には最高の住まいとなることでしょう。



# T R A N S F O R M A B L E

